

JRA畜産振興事業

「畜産物に対する放射性物質の安全に関する調査事業」シンポジウム

東京電力福島第一原発事故から学ぶ食の安全 -畜産物について-

消費者調査報告

2012年3月24日

東京大学大学院農学生命科学研究科
科学コミュニケーション領域
細野ひろみ

牛肉の放射性物質に関する リスクコミュニケーション研究

放射性物質リスクをめぐる消費者認識の把握
(何が、どう理解されているか？求められている情報は？知識は行動に結びつくか？)

～H23年10月

H23年11月

H23年12月

H24年3月

情報提供
パッケージ
の作成

第1回
Web
調査

第1回
フォーカ
ス
グループ
インタ
ビュー

情報提供
パッケージ
の見直し

第2回
フォーカス
グループ
インタ
ビュー

情報提供
パッケージ
の見直
し

第2回
Web
調査

全国の
20-60代の男女
4,363名

グループ1: 20-30代の未婚女性
グループ2: 小学生以下の子をもつ女性
グループ3: 小学生以下の子を持つ男性
グループ4: 50-60代の女性
グループ5: 50-60代の男性

全国の
20-60代の男女
5,028名
(うち、2,331名トレース)

Web調査の概要1

—回答者の属性—

		第1回Web調査		第2回Web調査	
		人数	%	人数	%
全体		4,363	100.0	5,028	100.0
性別	男性	2,165	49.6	2,641	52.5
	女性	2,198	50.4	2,387	47.5
年齢	20～29	882	20.2	873	17.4
	30～39	839	19.2	1,014	20.2
	40～49	864	19.8	1,078	21.4
	50～59	861	19.7	1,047	20.8
	60～69	917	21.0	1,016	20.2
居住地域	北海道	70	1.6	95	1.9
	東北	433	9.9	582	11.6
	関東	1,462	33.5	1,255	25.0
	北陸	281	6.4	382	7.6
	中部	347	8.0	516	10.3
	近畿	500	11.5	624	12.4
	中国	367	8.4	479	9.5
	四国	292	6.7	383	7.6
	九州	526	12.1	629	12.5
	沖縄	85	1.9	83	1.7

性別、年齢別に
各都道府県
5人以上の回答

- ・職業
- ・学歴
- ・専門
- ・未婚／既婚／離死別
- ・世帯人員数
- ・回答に要した時間

Web調査の概要

—調査の項目—

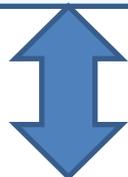
腸管出血性大腸菌・
サルモネラ・
カンピロバクター
BSE・クローン
動物医薬品の残留

態度
認知

食品安全や, 食事観, 原発事故と被災地支援, リスク認知

知識

放射性物質, BSE, 腸管出血性大腸菌, 牛肉



放射性物質について, 情報提供前後・有無との関係

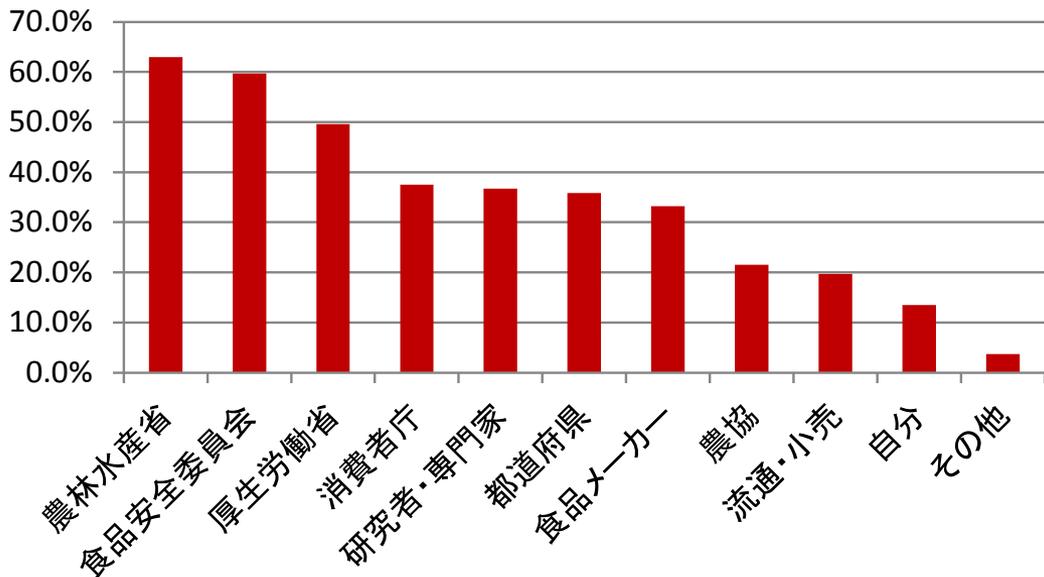
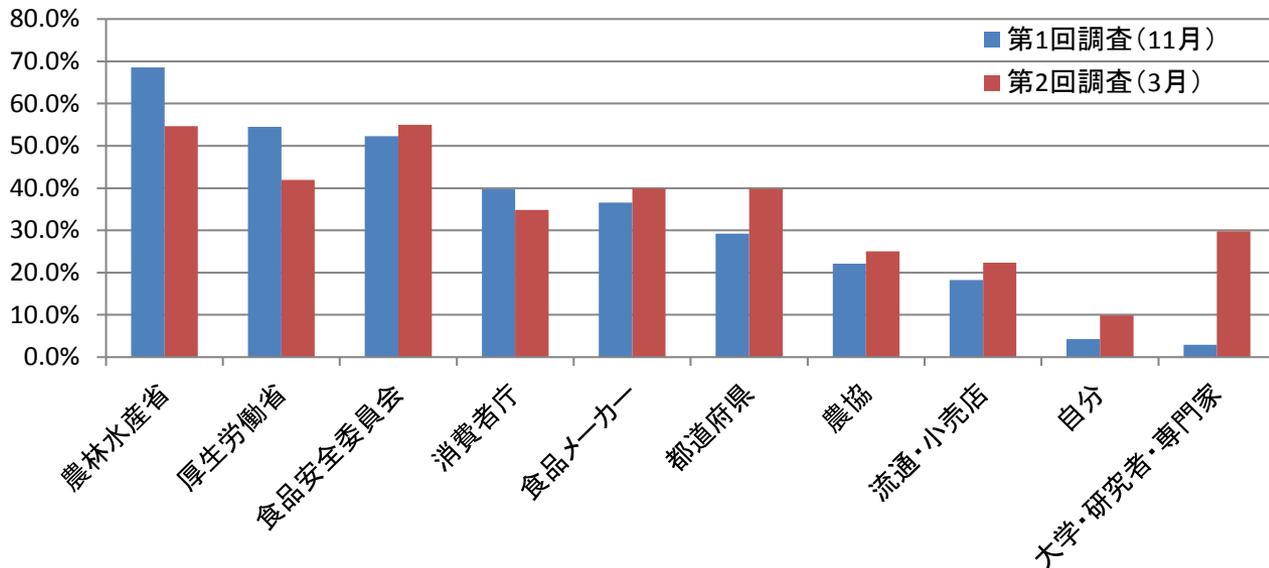
行動

情報提供や知識と, 商品選択行動との関係

信頼

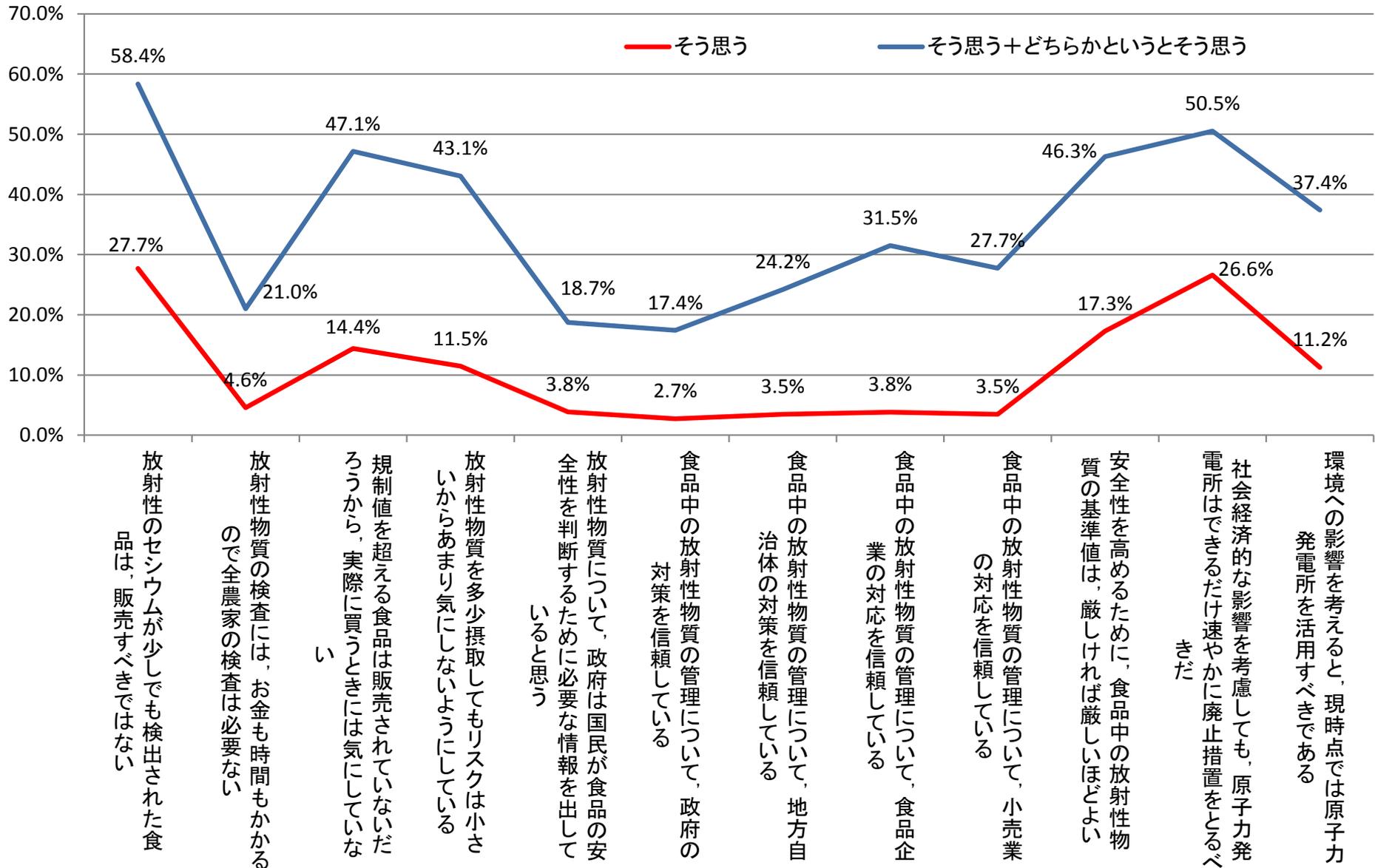
検査や, 各主体の取組に対する評価・信頼

食品中の 放射性物質 検査は誰が？

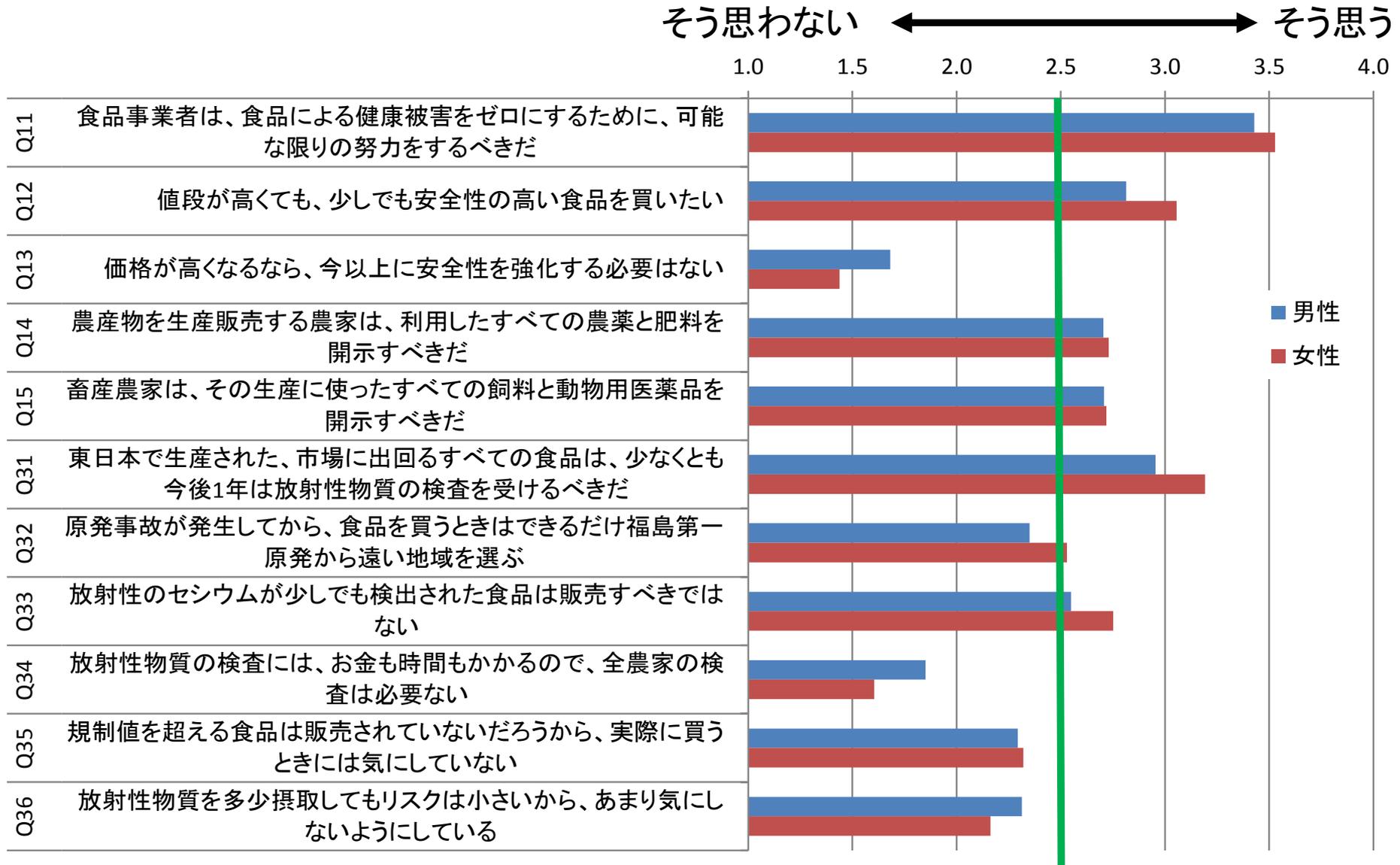


食品中の 放射性物質 規制値の設定は？

放射性物質・原発に関する意識と信頼

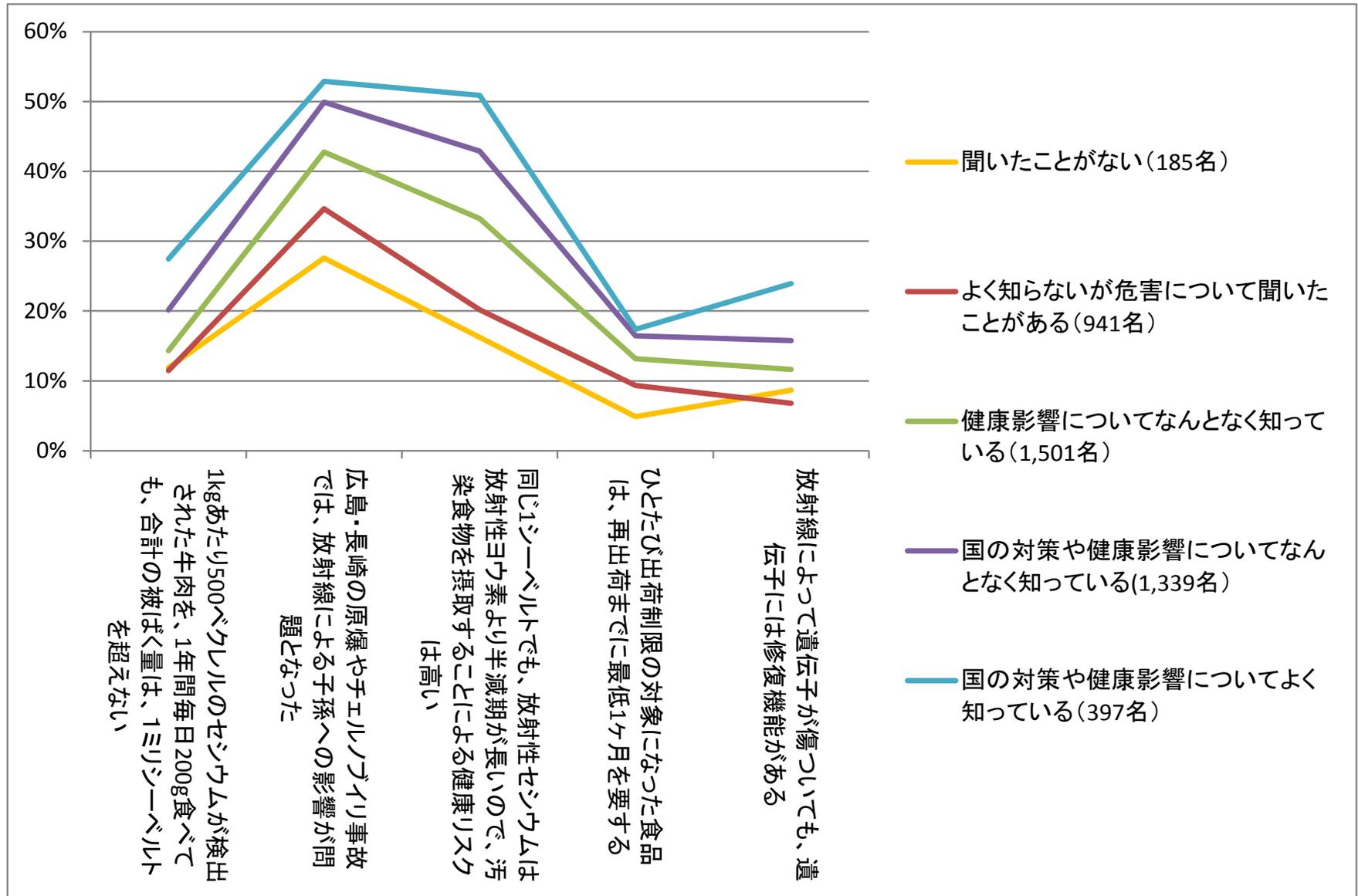


食品安全・放射性物質への態度1



主観的知識と客観的知識

「わからない」と答えた人を含めた正答率



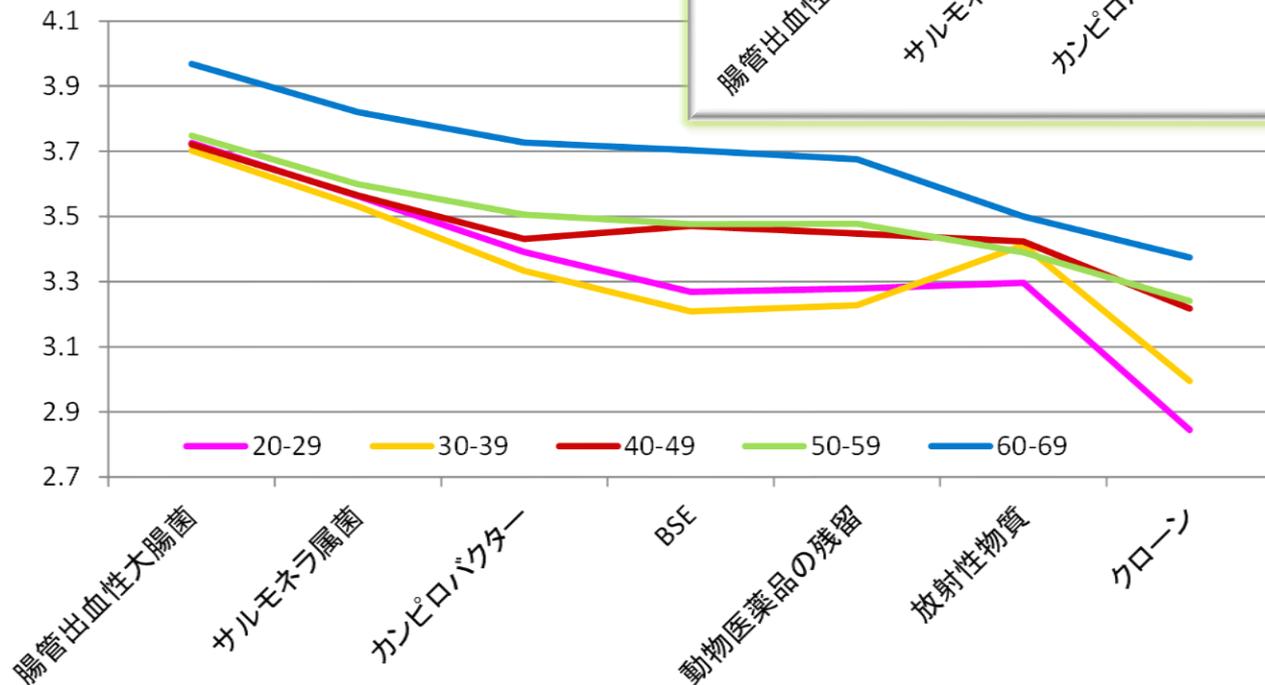
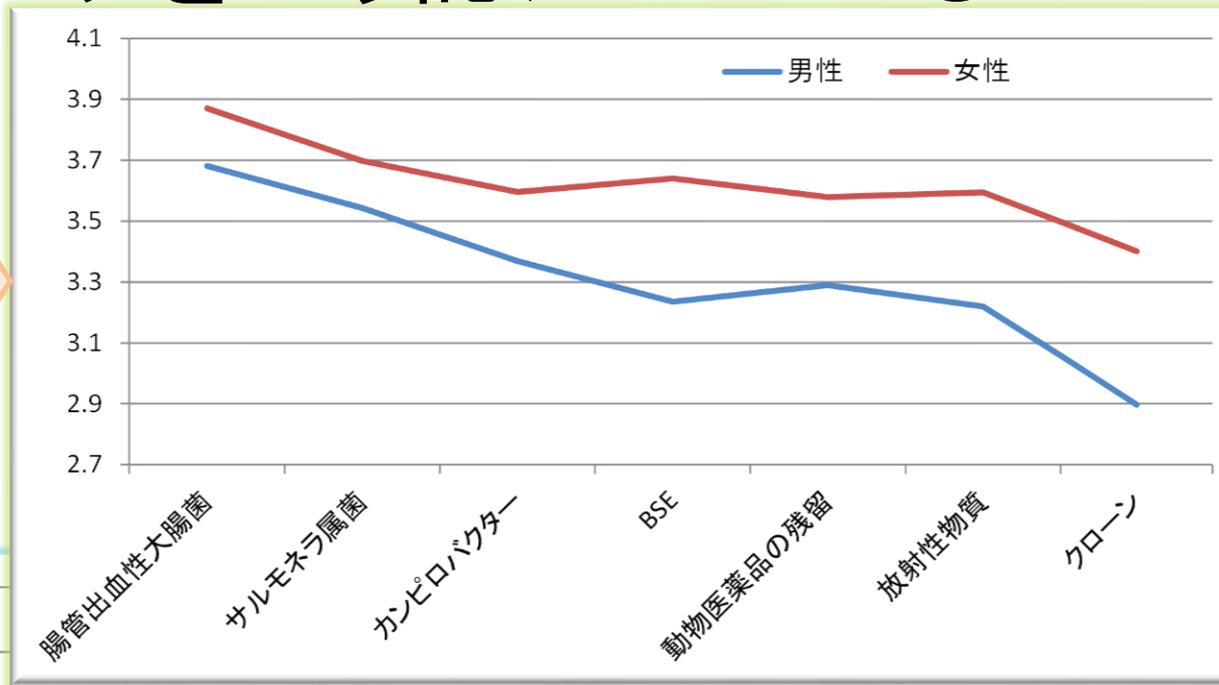
牛肉由来のリスクをどう認知しているか？

0(リスクがない)～5(リスクが高い)の6段階評価

	男性	女性	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	全体
腸管出血性大腸菌	3.68	3.87	3.73	3.70	3.72	3.75	3.97	3.78
回答率	87.3%	87.5%	82.2%	88.0%	90.2%	87.7%	89.0%	87.4%
サルモネラ属菌	3.54	3.70	3.56	3.53	3.56	3.60	3.82	3.62
回答率	85.9%	85.5%	78.7%	85.2%	87.7%	86.9%	89.7%	85.7%
カンピロバクター	3.37	3.60	3.39	3.33	3.43	3.51	3.73	3.48
回答率	67.2%	66.9%	60.9%	68.1%	69.6%	68.9%	67.9%	67.0%
BSE	3.23	3.64	3.27	3.21	3.47	3.48	3.70	3.44
回答率	87.8%	84.6%	78.9%	85.1%	88.8%	88.7%	89.3%	86.2%
動物医薬品の残留	3.29	3.58	3.28	3.23	3.45	3.48	3.68	3.43
回答率	79.2%	77.4%	68.8%	75.9%	81.3%	81.8%	83.4%	78.3%
放射性物質	3.22	3.59	3.30	3.41	3.42	3.39	3.50	3.41
回答率	88.1%	87.2%	82.0%	87.6%	88.7%	88.2%	91.7%	87.6%
クローン	2.90	3.40	2.85	3.00	3.22	3.24	3.37	3.15
回答率	78.5%	75.1%	71.1%	74.6%	79.4%	79.1%	79.6%	76.8%

牛肉由来のリスクをどう認知しているか？

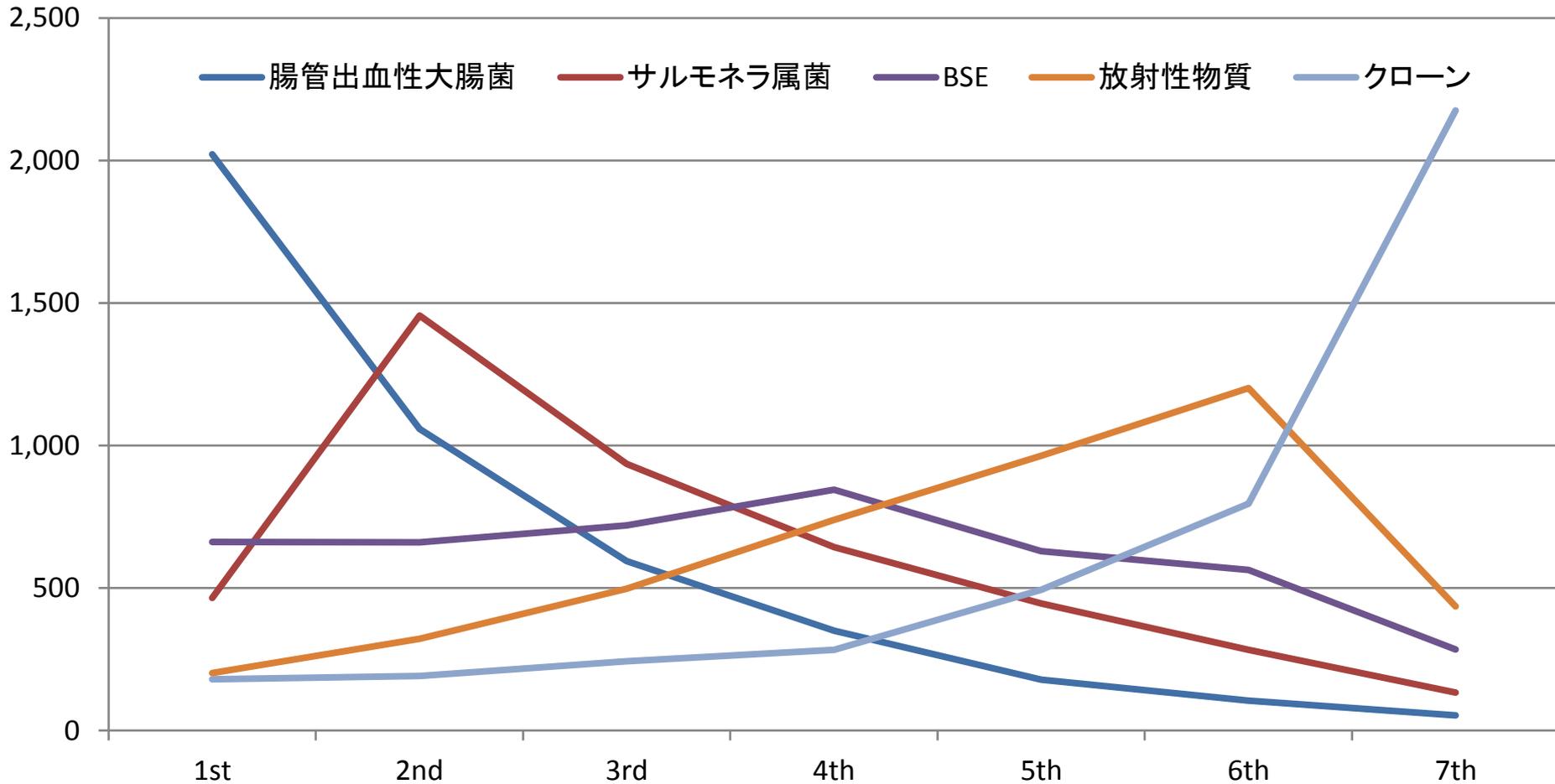
女性は
全体的に高く認知



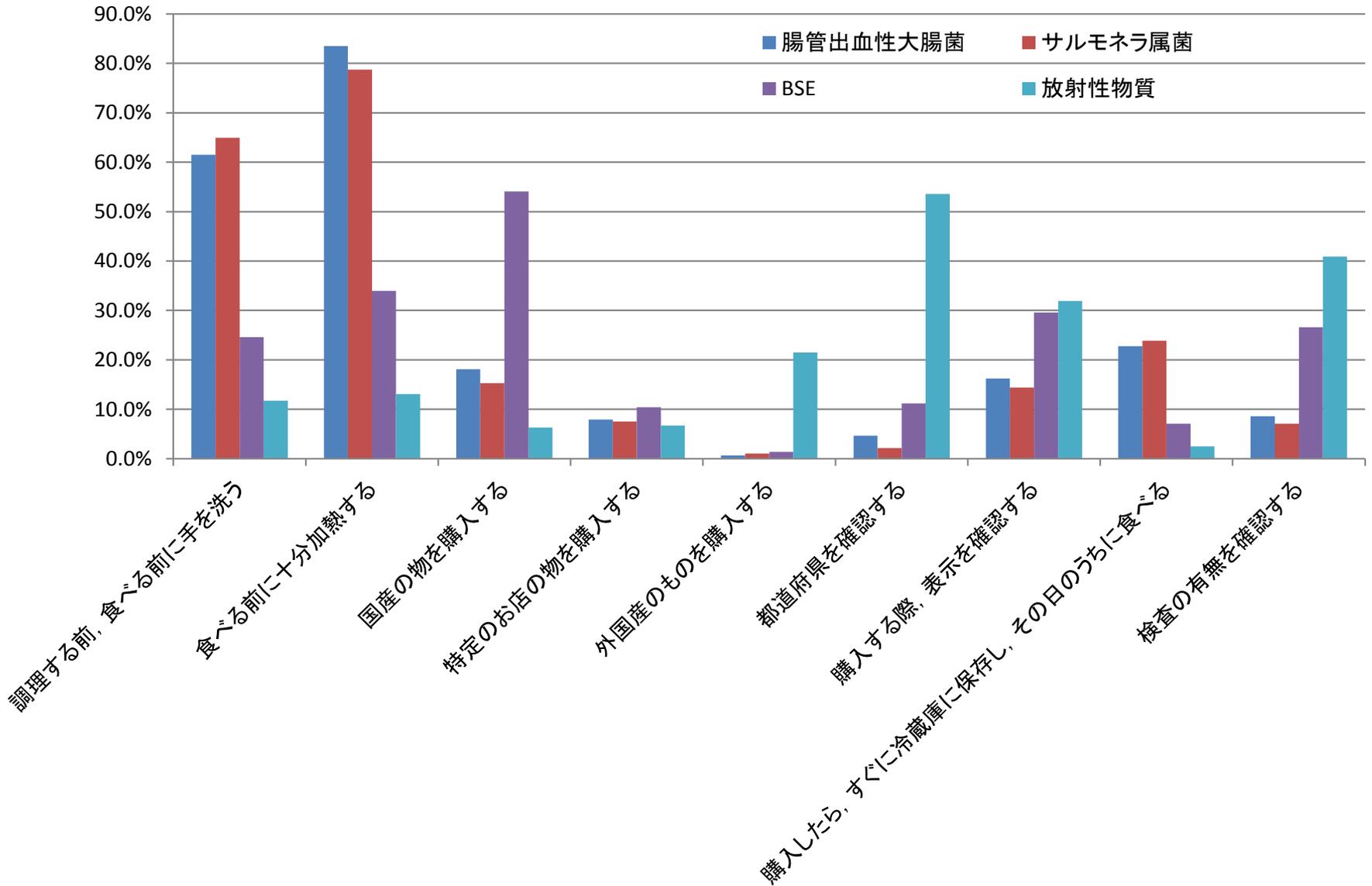
年齢階層が
上がるほど
リスクを高く認知
30代は放射性物質
のリスクを相対
的に高く認知

リスクランキング

7種類のハザードによるリスクを、何番目に高いと考えているか？

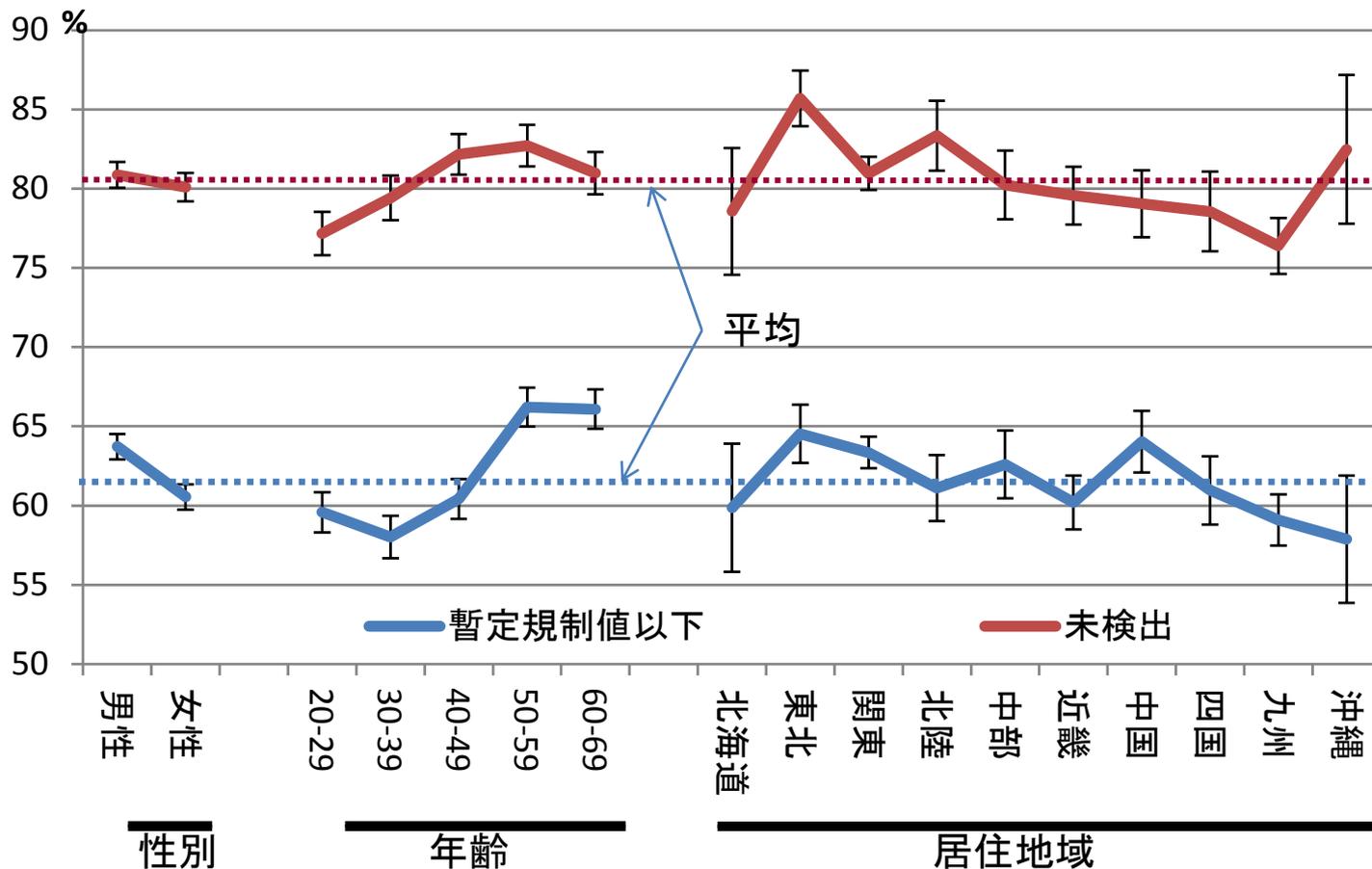


リスク低減のためにとる行動



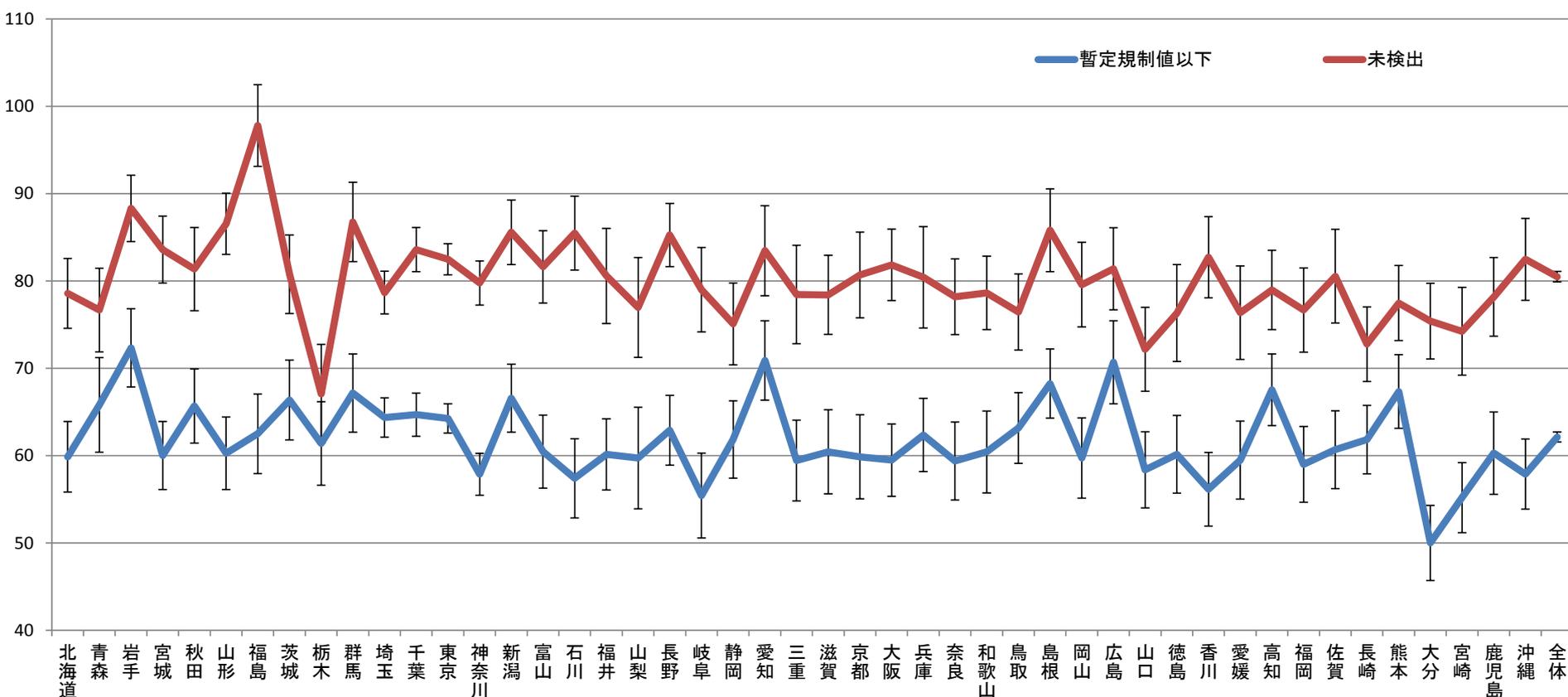
被災地の食品にいくらまで支払うか？

検査をして、放射性物質が**暫定規制値以下**の場合
検査をして、放射性物質が**未検出**の場合

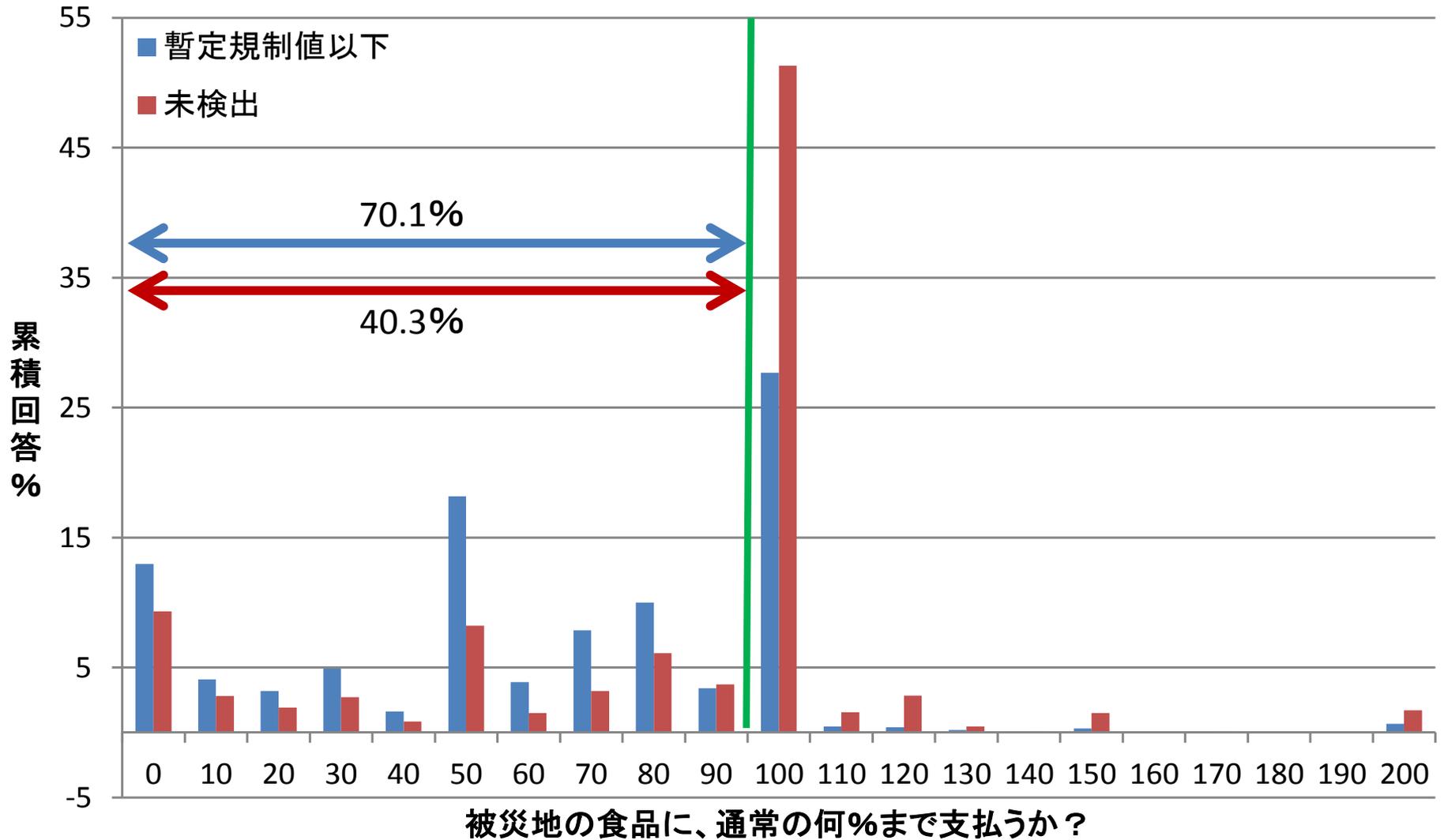


被災地の食品にいくらまで支払うか？

検査をして、放射性物質が**暫定規制値以下**の場合
検査をして、放射性物質が**未検出**の場合

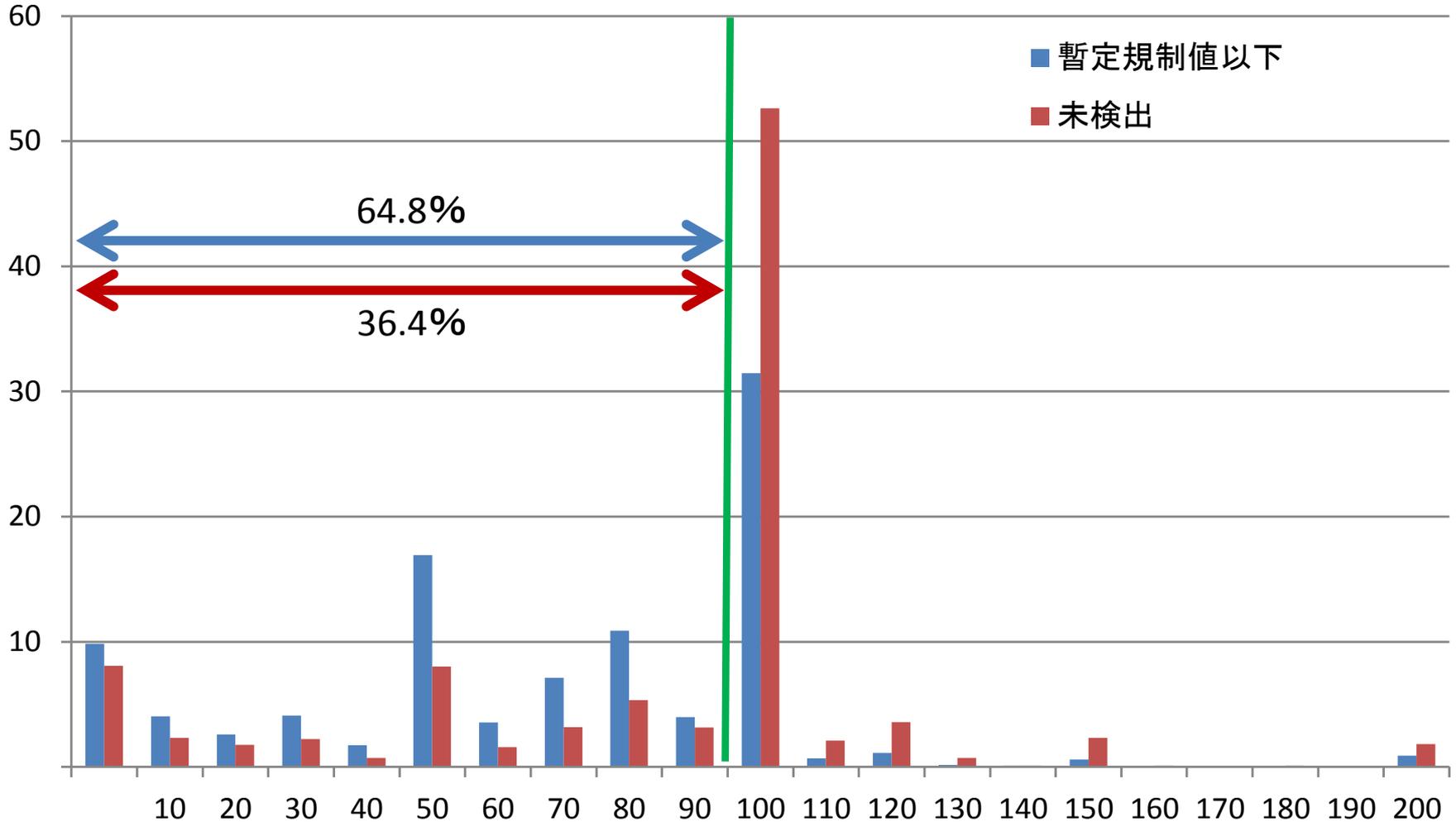


被災地の食品にいくらまで支払うか？ 11月調査



100%という回答が、「暫定規制値以下」で**27.7%**、未検出で**51.1%**

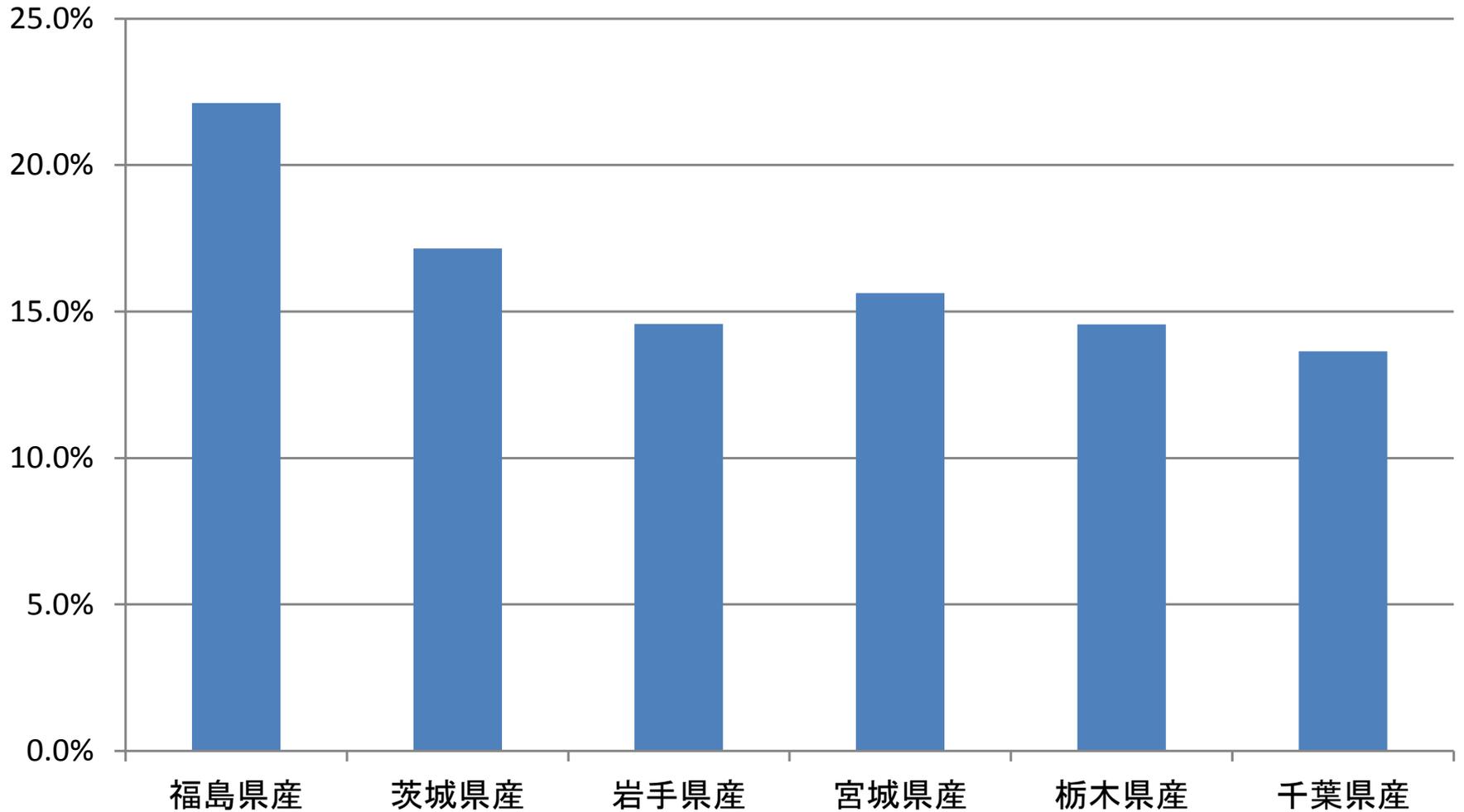
被災地の食品にいくらまで支払うか？ 3月調査



100%という回答が、「暫定規制値以下」で**31.5%**、未検出で**52.6%**

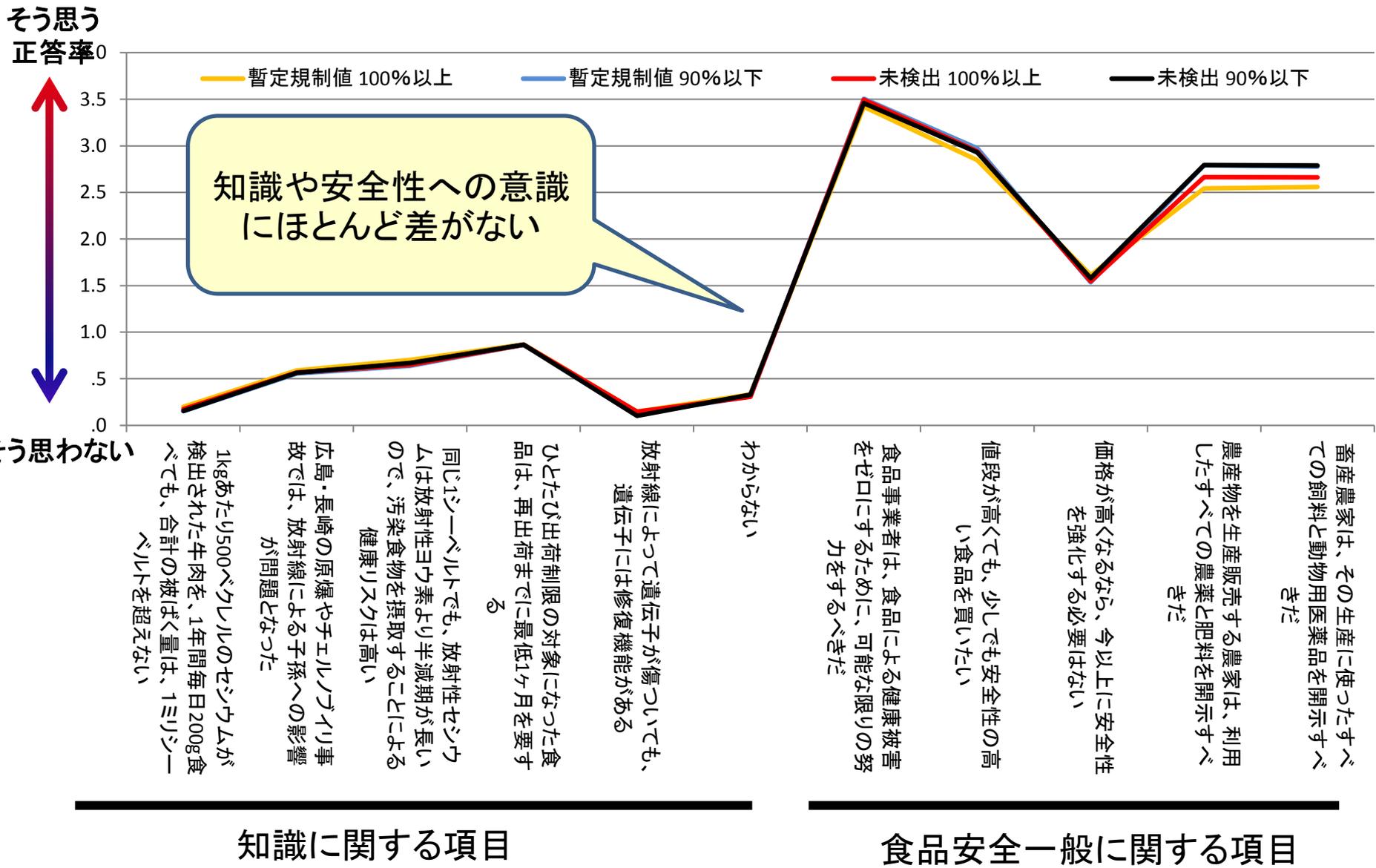
被災地牛肉の買い控え

(2012年3月現在)

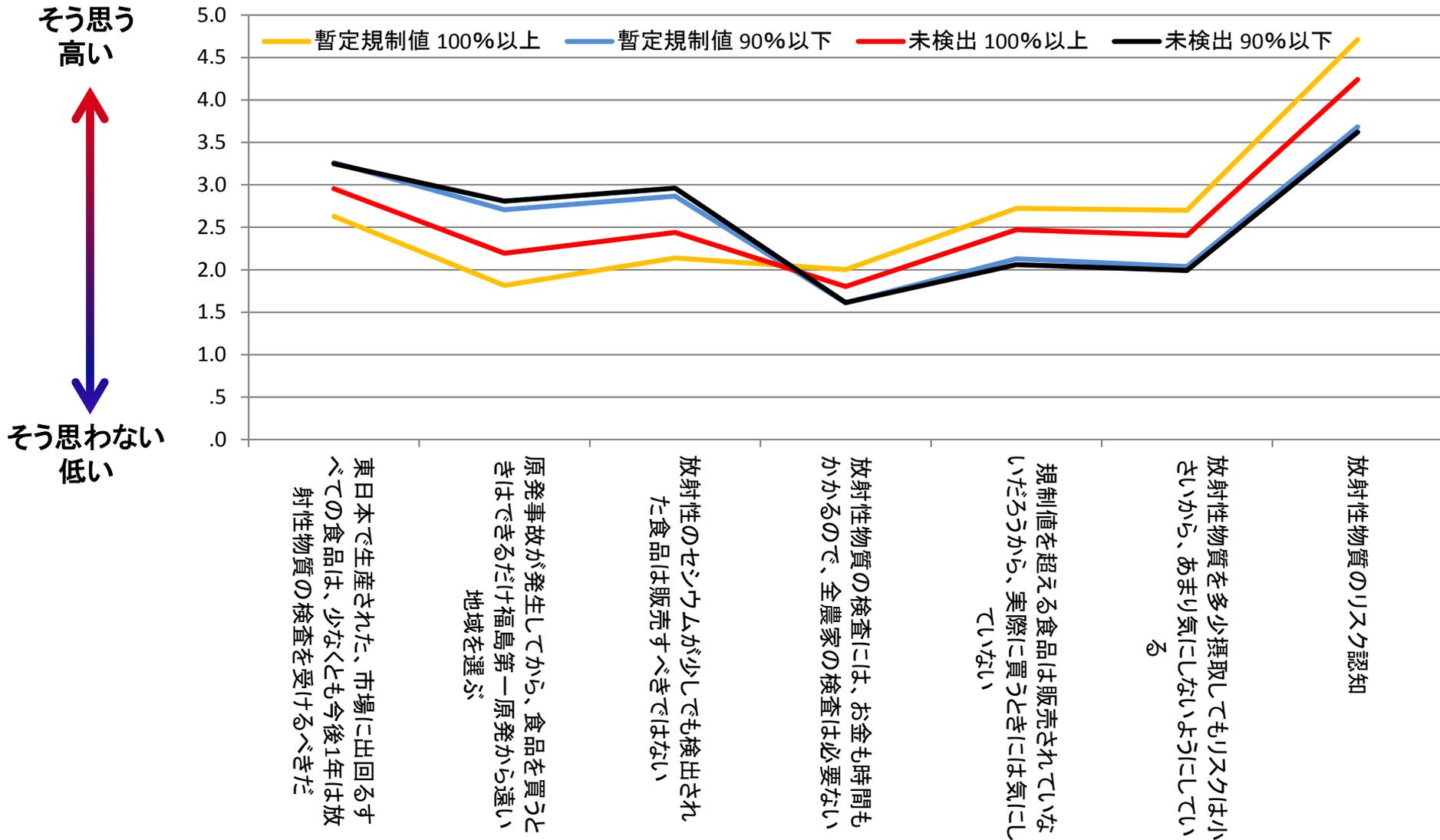


福島県産で68.2%、他の地域は73.4(茨城)～78.9%(千葉)の回答者は買い控えをしていない

「100%以上」と「100%以下」は、どういう人たち？

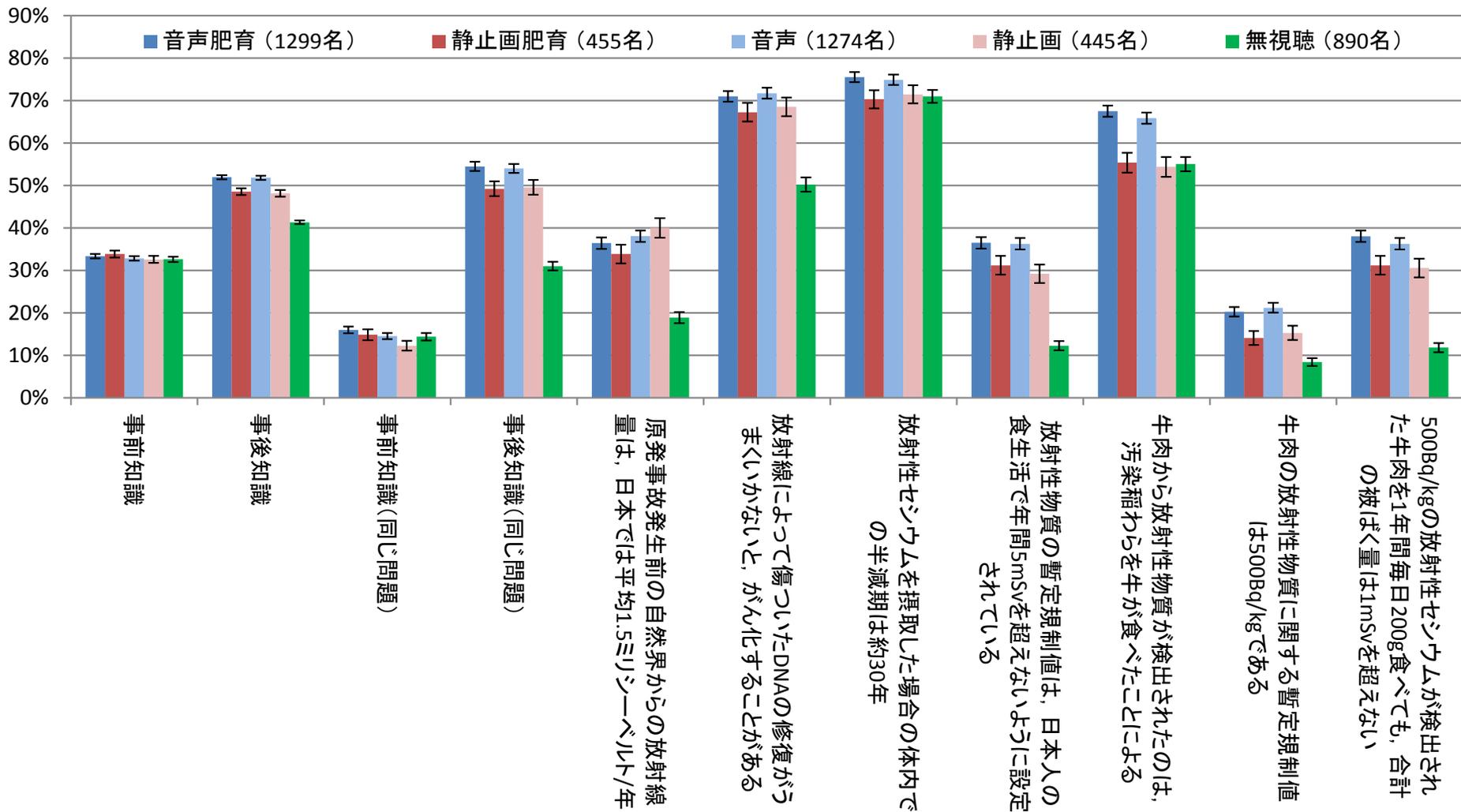


「100%以上」と「100%以下」は、どういう人たち？ ～放射性物質に関する態度とリスク認知～

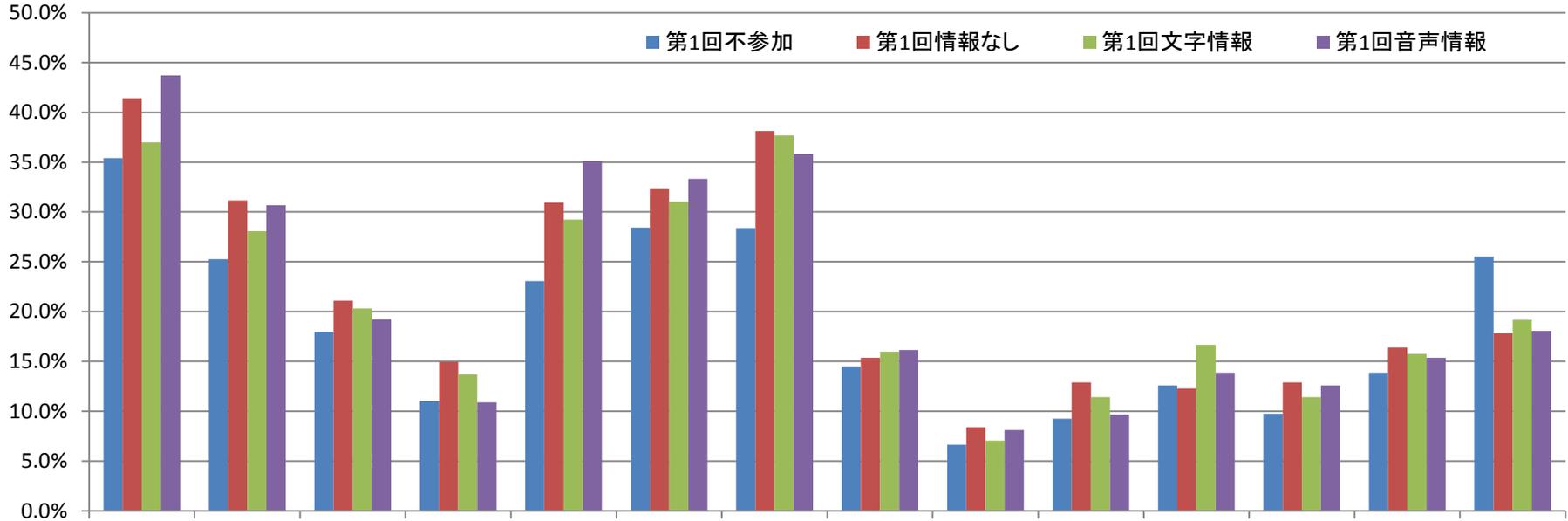


提供した情報は知識や牛肉の選択に
どう影響するか？

情報提供の効果（知識）



知識は持続するか？



正しいと思うものは一つもない

疫学調査の結果から、100ミリシーベルト以下の被ばくでは健康影響は確認されていない

ひとたび出荷制限の対象となった食品は、再出荷まで最低1か月を要する

牛肉の放射性物質の規制値は、農林水産省により定められた

牛肉が放射性部室に汚染された原因はまだ解明されていないため、日本国内で飼育された牛には全頭検査が義務付けられている

日本の放射性セシウムの暫定規制値は、PCがチェルノブイリ事故後に設定した食品を輸入する場合の規制値と同じ値である

暫定規制値は、日本人の平均的な食生活で、年間5ミリシーベルトを超えないように設定されている

放射性セシウムの、体内での半減期は約66年である

同じ1ミリシーベルトでも、放射性セシウムは、放射性ヨウ素よりも半減期が長いので、汚染食物を摂取することによる健康リスクは高い

放射線によって遺伝子が傷ついても、遺伝子には修復機能がある

少量でも放射線被ばくが続くと必ず癌が発生する

昨年3月以降の食品による放射性セシウムの被ばく量は、新基準値の許容線量を上回ると推定されている

自然界からの放射線量は、日本では平均1.5ミリシーベルト/年である

食品中の放射性物質はベクレルという単位で表し、それがヒトに与える影響の大きさはシーベルトで表す

フォーカスグループインタビュー

第1回FGIの流れ

- 
- 0分～ 開会(目的・概要等)
- 10分～ 自己紹介(アイスブレイク)
- 20分～ 食品の安全性についての問題意識
Post itを使って各自意見を書いてもらい, 話し合う
- 40分～ 情報提供(アンケート調査時に示した内容)
- 60分～ 食肉中の放射性物質についての問題意識
提示した情報で, わかりにくいこと, 足りない情報は?
- 110分～ 総評、質疑応答時間
- 120分 終了

第2回FGIの流れ

- 
- 0分～ 開会(目的・概要等), アイスブレイク
- 10分～ フリートーク(情報入手先について)
- 40分～ アンケート調査の結果について
- 検査主体や, 被災地の食に関する評価
- 60分～ 情報提供資料リバイス版の説明
- 各自重要と思う情報カードを10枚抽出.
話し合いで統合・分離, 各グループ10枚にまとめる
追加的に必要な情報
- 110分～ 総評、質疑応答時間
- 120分 終了

フォーカスグループインタビューから ～もっと知りたい情報～

- ベクレルとシーベルトとの関係
- “半減期”の意味
- 確定的影響と確率的影響について、わかりやすく
- 放射性物質のリスクと他のリスク(タバコなど)との比較
- パイロットや放射線技師などの疫学調査の結果
- 他の国での放射性物質に対する規制、日本との比較
- 検査の方法(どこで、どのような計画で行われているのか?)
- 規制値の意味と設定方法について、その根拠と合わせてわかりやすく
- 子供に対する健康影響、大人との違い
- 何シーベルトでどういう健康影響があるのか?
- 過去に発生した類似の事故との比較(チェルノブイリ、広島・長崎)
- 自然放射線が高い地域での対策
- 今、何をしなければならないか。どうすればよいのか。

フォーカスグループインタビューから ～その他の意見～

- 「安全である」と言ってもらえば、福島のものでも買う。「安全」と言ってほしい。(30-40代男性、単身女性、30-40代女性)
- 被災地のものだから買って応援しようという気持ちは特にはない。どこのもので農家が苦勞して栽培したり、育成しているのは変わらないと思う。(30-40代男性)
- 理論的には安全だとわかっているけども、避けたいものは、避けたい。(50-60代男性)
- 何か隠されていることがあるのではないかとすると、不安になる。(30-40代女性)
- 自分にとっての影響、自分の被ばく量を知りたい(50-60代女性、30-40代女性)
- 放射性物質のリスクについて、料理レシピのような感じで、スーパーに小さなカードがおいてあると良い(50-60代女性)
- 簡易版とフルバージョンの情報パッケージがあるとよい(50-60代男性、50-60代女性)
- 何のための情報提供か、明確に(30-40代男性、50-60代男性、単身女性)

課題

- 「ベクレル」「シーベルト」という言葉の意味や関係の理解度は高くない。
- リスクは病原性微生物やBSEと比べると高くないと認識されているが、30－40代では相対的に高く認知。
 - 長期的影響、将来世代への影響懸念
- 「暫定規制値以下」「未検出」でも、被災地食品の価格評価は平均で見ると低いが、100%支払う用意がある人は多い。
 - 「知識」の影響は限定的。「態度」の規定要因
- 「規制値」＝少しでも超えたら危険
 - 規制値の考え方、リスク評価と管理の考え方の普及
- 「安全だ」と言ってほしい

ご清聴いただき、どうもありがとうございました